

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、このところ一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

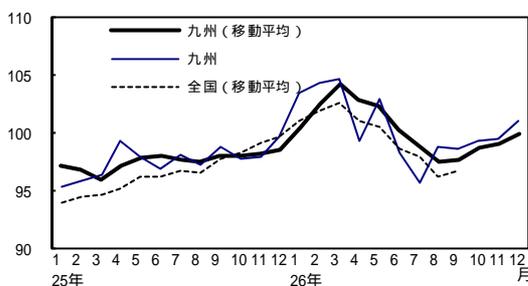
	前回(平成26年11月)	今回(平成27年2月)
景況判断	緩やかな回復基調が続いているが、このところ弱さがみられる	緩やかな回復基調が続いているが、このところ一部に弱さがみられる
鉱工業生産	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ減少している	おおむね横ばい
個人消費	持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる	持ち直しの動き
雇用	改善	着実に改善

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

10~12月期には、輸送機械は、普通乗用車で海外向け受注の増加や、軽・小型車での新型車の生産開始等により増加した。電子部品・デバイス、海外向けのスマートフォン用途の半導体集積回路(CCD・その他)等で増加した。はん用・生産用・業務用機械は、海外向けの半導体製造装置や水管ボイラを中心に増加した。化学・石油石炭製品は、インフルエンザワクチン等を中心に増加となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7~9 月期	10~12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	24.5	12.5	5.5	0.9	5.0	5.0
電子部品・デバイス	12.3	2.1	13.5	3.7	3.8	3.9
はん用・生産用・業務用機械	11.2	3.5	1.7	2.2	8.1	17.4
食料品	9.6	3.6	1.8	2.4	0.2	3.3
化学・石油石炭製品	8.3	1.5	4.0	7.8	6.5	2.5
鉱工業	100.0	2.5	2.3	0.7	0.1	1.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10~12月期、12月は速報値。

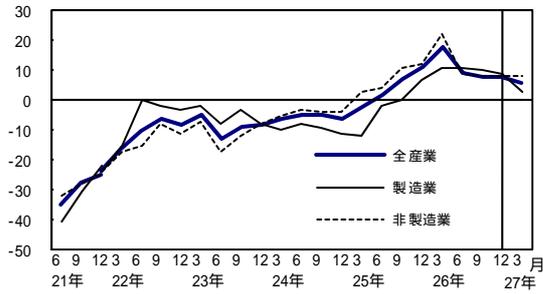
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の大線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

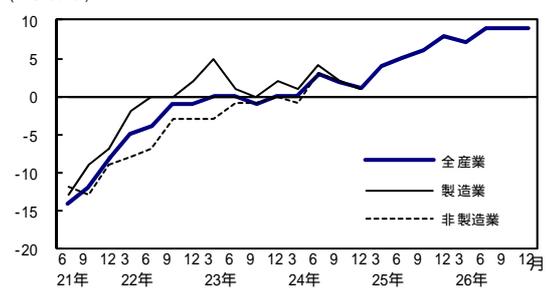
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



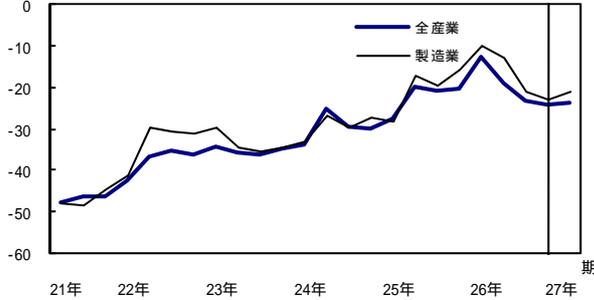
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年3月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。25年3月から
製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



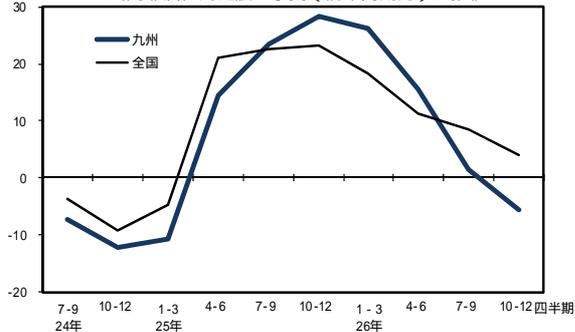
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。
九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「燃料油の小売価格は下げ基調に入っており、毎週、小売価格が下がっている。レギュラーガソリンについては、地域内で120円台の看板も出始めた。個人顧客は、定量購入から満タン購入にシフトしているようだ(その他専門店[ガソリンスタンド])」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

(前年度比、%)

	25年度実績	26年度概
全産業	16.8	12.7 (1.6)
製造業	5.0	23.9 (0.4)
非製造業	27.0	8.7 (2.4)

(備考) 1.()は前回(9月)調査比修正率。

2.リース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比0.8%減、11月は同1.5%増、12月は同1.0%減となった。

大型小売店販売額

百貨店は、10月は、秋冬物商材や飲食料品などに動きがみられたものの、台風の影響等から、前年を下回った。11月は、飲食料品や高額品が堅調に推移したこと等から、前年を上回った。

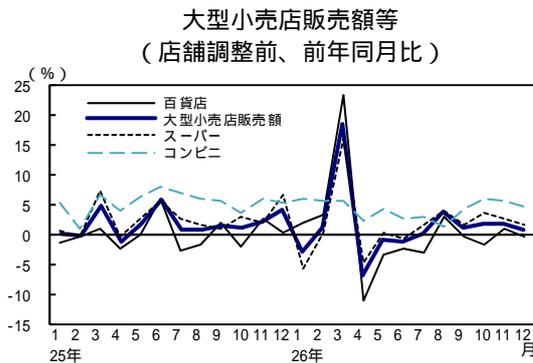
12月は、衣料品や歳暮商品の動きが鈍かったこと等から、前年を下回った。

スーパーは、衣料品は全般的に動きが鈍かったものの、惣菜や精肉など主力である飲食料品が堅調に推移したことに加え、住関連商品の動きが良かったこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月) [家計動向関連 (現状)]

九州地域の家計動向関連DIは、42.0となり前月より5.2ポイント低下した。

「年始商戦の客足は郊外の大型店に流れ、市街地中心部の商店街の客は少なかった。客単価は上向きであるが、来客数が減少している (商店街)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



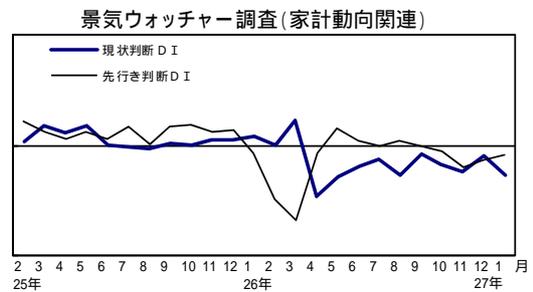
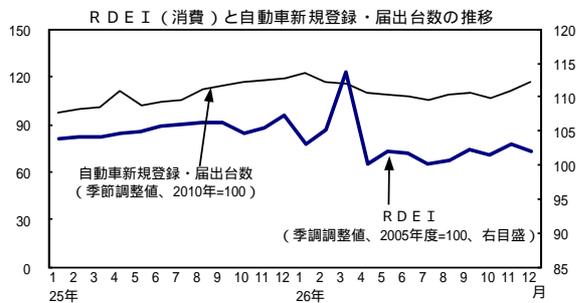
	26年10-12月	26年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	1.1	0.8	1.5	1.0
大型小売店(*2)	1.5	1.9	1.9	0.8
百貨店(*2)	0.3	1.6	0.9	0.5
スーパー(*2)	2.5	3.7	2.5	1.6
コンビニ(*2)	5.5	6.1	5.7	4.6
乗用車(*3)	5.5	7.5	9.7	0.7
(季節調整値)(*3)	3.2	2.9	3.4	6.0

(備考) 1. 季節調整前期(月)比 (%)

2. 九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、平成25年1月以降は九州のみの数値

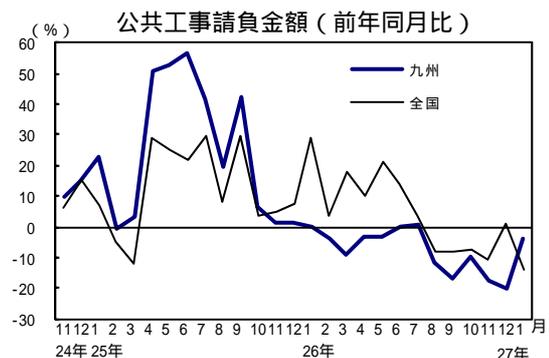
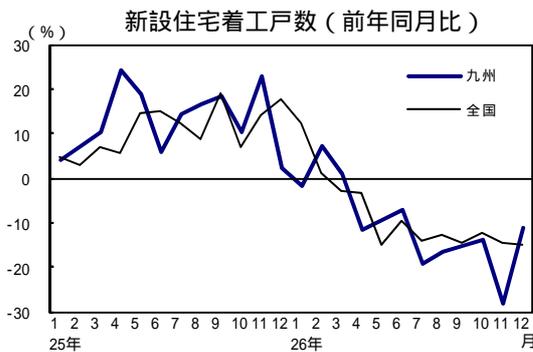
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比) (%)



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は26年度累計でみると前年度を下回っている。

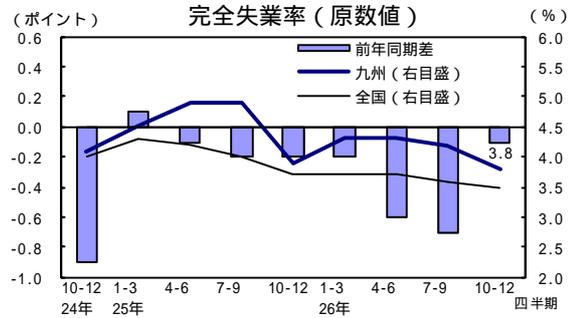
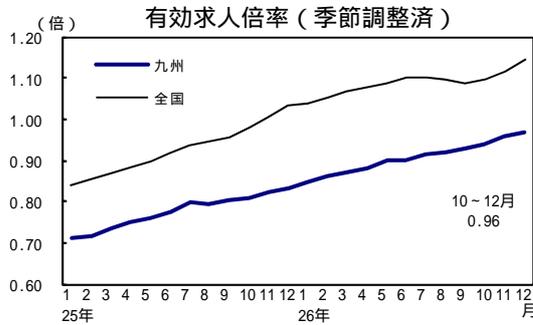


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率等

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (1月)[雇用関連 (現状)]

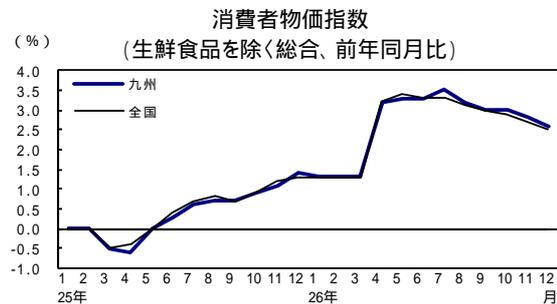
「有効求人倍率の上昇とともに、就職率、充足率など数値的には上昇傾向にある。しかし、企業訪問時に業況等について聴取したところ、景況感が好調であるとする企業は少なく、あまり変わらないとする企業が多い (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	27年1月
倒産件数	170	187	135	162	65
(前年比)	4.9	1.1	26.2	1.8	4.8
負債総額	322	336	184	376	85
(前年比)	37.2	5.3	27.3	36.6	44.5



景気ウォッチャー調査 (1月)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・点検、車検のサービス売上は堅調に推移しているが、肝心の新車販売が低調である。財布のひもは固いままである (乗用車販売店)

<先行き>

・円安等で原材料が高騰しており、取引先が2～3月にかけて商品を値上げする。地方の消費者の所得は上がっておらず、置き家具の買換え等の見通しは良くない (住関連専門店)

景気ウォッチャー調査
(合計: 家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

